

公共事業と教育-学びの場から考える-

No. 1



わが国では、高齢化により社会保障支出が増加する一方、社会保障以外の支出はOECD（経済協力開発機構）諸国の中で、最低の水準にまで減少しています。その中には、公共事業費（インフラ形成費）や教育費など、現世代だけでなく将来世代にとっても極めて重要な支出が含まれています。

現在、われわれが享受している安全で快適な生活は、先人たちが森林や田畠、鉄道や道路を整備し、川を治め、水資源を開発するなど、絶え間なく国土に働きかけを行つことによって、国土から恵みを返してもらつてきました歴史の賜物です。従つて、現代に生きるわれわれの世代も、國土に対して働きかけを続け、現代に生きるわれわれの世代も、将来世代に対して、より良い社会基盤（インフラストラクチャ）を引き継いでいかなければなりません。

また、正確な知識や道徳といふ共通基盤がなければ正しいコミュニケーションや、個人の持つ能力を引き出し、それによって社会・経済を維持・発展させていくことはできません。

わが国の明治維新期のみならず、近代国家（Nation-state）の建設に当たっては、いざれの国でも交通網の整備と初等教育の普及が必要不可欠な要素でした。例えば、フランスでは、20世紀の歴史学者フェルナン・ブローデルが著書『フランスのアイデンティティ』で書いたように、19世紀の第二帝政から第三共和政期における鉄道網の整備と、小学校での共通基盤の整備が「單にして不可分の共和国」を創造しました。

公共事業と 教育

学びの場から考える

国際アーティスト 森田 康夫

●●1

ました。
次の文章は、わが国を代表する民俗学者であり、また戦後初期の国語科・社会科教育に並々なる関心を持って臨んだ柳田国男監修の小学六年生用社会科教科書の最後のページの内容です。社会には乳児院やたぐ児所や養老院などのほか、いろいろな公共しせつがあります。つきの表（※保健所、病院、水道、下水、警察署、消防署などの健

康・安全施設、鉄道、バス、駅、道路、橋、郵便局、公衆電話などの交通・通信施設、学校、公民館、図書館、博物館、動物園、公園などの教育・レクリエーション施設が列挙されているは

そのおもなもので。これらの幸福や利益のためにもうけられていいるものが、公共しせつです。社会には乳児院やたぐ児所や養老院などのほか、いろいろな公共しせつがあります。つきの表（※保健所、病院、水道、下水、警察署、消防署などの健

康・安全施設、鉄道、バス、駅、道路、橋、郵便局、公衆電話などの交通・通信施設、学校、公民館、図書館、博物館、動物園、公園などの教育・レクリエーション施設が列挙されているは

幸福を支える教育・インフラ・寛容な民主主義

★ ★ ★
「公共事業悪玉論」や「公共事業不要論」などが呼ばれる中で、日本の公共事業は本当にう不要なのでしょうか。公共事業の役割が国民にもっと正確に伝わっていれば、こうした不要論は出てこないはずです。諸外国では公共事業の役割をどのように教育しているのでしょうか。公共事業と教育という視点でリポートします。